

輸入粗飼料の情勢

全酪連購買部
購買推進課

北米コンテナ船情勢

パナマ運河の拡張工事が終わり、6月26日より供用が開始されました。新しくなったパナマ運河は従来5000TEU(20フィートコンテナが5000本まで搭載可能)までの船しか通れませんでした。この拡張により13000TEUまで通れるようになり、北米からアジアに向けた航路として選択される可能性があります。

海上運賃については、相変わらず船腹に余剰感があり、北米向けの輸出がある日本の港向けの運賃は空コンテナを得るために過当競争になっています。

7月1日に発効された改正SOLAS条約については、現在のところ、北米側の産地において大きなトラブルはないようです。全酪連では重量の申告を行わないとチャージが掛かるような船社の利用を控えるなど、産地および日本側の負担にならないような運用を進めています。

ビートパルプ

<米国産>

日本向け主産地のミネソタ州・ノースダコタ州の北部では、降雨が多かった影響で作付けが遅れたことに加え、生育時にも多雨の傾向となっており例年より収量は下回る可能性があります。しかしながら、それ以外の産地では今のところ生育は良好と見られ、全体では生産量もほぼ昨年並みと推測されます。収穫作業は昨年同様、例年よりも10日から14日早い8月中旬からとなる模様です。

アルファルファ

<ワシントン州>

主産地のコロンビアベースンでは2番刈の収穫作業はすべて終了しています。1番刈で例年よりも多い70～80%程度の降雨被害が発生しており、プレミアム品が限定的であったことから2番刈での良品の発生が期待されていました。しかしながら、2番刈についても収穫前半の6月中旬の降雨で、コロンビアベースン南部～中部の40%程度が被害にあったようで良い状況とは言えません。2番刈の品質については、晴天が続かず不安定な天候の中、天候優先で作業を進めたことで、1番刈と同様に全

体的にドライ気味な仕上がりとなっています。米国内の酪農家の需要は依然として弱いままで、産地相場自体は軟調傾向が続いています。一方で、プレミアム品の発生は限られていることから高成分の良品の価格は堅調に推移しております。

産地での収穫作業は例年よりも1週間早いペースで進んでおり、現在は3番刈の収穫が始まっています。収穫スケジュールが早いいため、16年産は昨年同様、コロンビアベースン全体で4番刈まで収穫できる見込みです。



ワシントン産2番刈（7月中旬撮影）

ワシントン産3番刈の圃場（7月中旬撮影）

<オレゴン州>

クラマスフォールズでは5月下旬より1番刈の刈り取りが開始されました。収穫期の天候は、2015年と比較すると安定しており、降雨被害は全体の20%程度だったようです。全体的に早刈り傾向で高成分のアルファルファが多いようです。2番刈の収穫は一部でスタートしており、これまでのところ天候も安定しているようで、良品が期待できそうです。

クリスマスバレーでは、6月上旬から1番刈の収穫が開始されました。1番刈の序盤では一部で降雨被害が発生していますが、天候が回復した6月中旬以降に収穫したものについては刈遅れが心配されたものの、例年並みに良品が発生しています。

ワシントン産1番刈の降雨被害により、クラマスフォールズおよびクリスマスバレーではプレミアム品を求める米国内向けおよび輸出サプライヤーからの引き合いが強くなっており、産地価格は堅調に推移しています。



クリスマスフォールズ産1番刈(7月上旬撮影)



クリスマスバレー産1番刈(7月上旬撮影)

<カリフォルニア州>

カリフォルニア州中～北部では現在3～4番刈が終盤を迎えています。2番刈および3番刈では降雨被害も少なく、見た目がきれいな緑目のものが多く発生しているようです。当地でもワシントン州1番刈の降雨を受け、プレミアム品の需要が高まっていますが、他産地と比べるとその影響はまだ大きくはないようです。

南部インペリアルバレーでは5番刈の収穫が中盤を迎えています。7月に入ってから連日38度を上回る高温となっており、低成分ですが見た目がきれいな緑目のアルファルファの生産が中心となっております。産地価格については、中国、韓国および中東勢を中心に旺盛に買い付けされているため、強含みで推移しております。



北カリフォルニア産3番刈(7月上旬撮影)

<ユタ州>

ユタ州においても、例年よりも2週間ほど早く、5月下旬からアルファルファ1番刈の収穫

作業が始まりました。1番刈の序盤では一部で降雨被害も発生したようですが、全体的には天候に恵まれ、良品が多く発生しております。

2番刈の収穫も終盤を迎えておりますが、1番刈に引き続き天候に恵まれており、きれいな緑目の2番刈が多く発生しているようです。



ユタ産1番刈(7月上旬撮影)

チモシー

米国産

コロンビアベースン南部では早くも2番刈りの刈り取りが開始されました。1番刈の収穫期は比較的天候も安定していたため、牛用のプレミアムクラスが多く生産されました。一方、コロンビアベースン中部・北部では6月中旬から天候が不安定になり、コロンビアベースン中部では晩生種などが降雨被害にあい、北部でも同様に降雨被害が散見されています。このためコロンベアベースン全体では30%程度が降雨被害にあったと言われております。また、キティタスバレーでも40%程度降雨被害にあったと言われており、雨あたりを逃れた圃場でも雑草が混入しているものが例年より多いようです。

今年は牛用の上級品～中級品の発生は多いようですが、馬用の最上級品の生産は限定的になっており、その需要が一部牛用にも入り込んできています。さらに今年は中東の馬向けの買付が増えており、これらの需要が日本向けの牛用の上級品に手を付け始めているようです。このため日本向けの上級品の供給力は例年に比べ限られています。チモシー全体の需要は強まってはいますが、中級品以下の価格は生産農家にとって満足いかないものとなっており、これらの生産農家は1番刈り終了後に大豆やとうもろこし等への転作を進めたりしてきています。

アイダホ州では、6月下旬から刈り取りが開始されたものの、刈り取り直後に降雨

があり雨あたり品が多く発生しているようです。降雨を免れた農家は例年並みの品質が出来ているようですが全体的に良品は限られています。

カナダ産

主産地であるアルバータ州南部のレスブリッジでは、現在95%刈り取りが終了しています。例年より1週間程度遅いスケジュールですが、単収は3.0MTと例年並みになっています。天候は6月下旬から不安定となり、さまざまなグレードが発生しているようです。

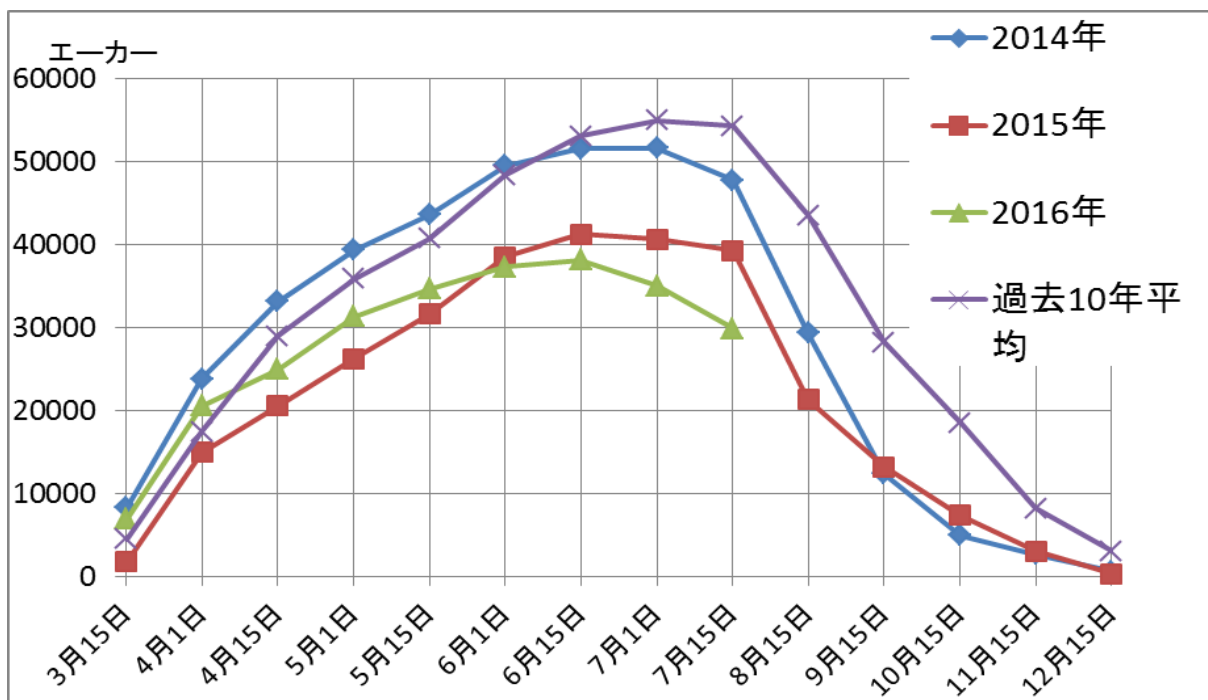
レスブリッジ地区の今年のグレード別の発生割合は、上級品が20%弱、中級品が55%程度、それ以下が25%以上となりそうです。

アルバータ州中部のクレモナでは、現在のところ刈り取りの進捗は5~10%程度ですが、既に雨当たりが発生しているようです。8月に入っても降雨予報が出ており、天候の回復を待つて刈り遅れの圃場が多数出てくる可能性もあり、この地域の上級品の発生は非常に限られてくるかもしれません。

スーダングラス

主産地インペリアルバレーでは1番刈りの収穫はほぼ終了しており、7月中旬から2番刈りの収穫が本格化しています。昨年のこの時期は降雨が多く天候は不安定でしたが、今年の収穫は順調です。収穫の進捗も例年に比べ14日前後早く、また早播きの面積の比率が高く、湿度が発生する時期の前に収穫を終えた圃場が多かったことから、色抜け品の発生が例年に比べ少なくなっています。7月15日時点の作付面積は29,859エーカーで昨年比約24%の減少となっています。作付面積のピークは1ヶ月前の38,130エーカーで、過去15年の中で2番目に低い水準となりました。前月号でも言及した通り、作付面積減少の背景には産地相場の下落から生産農家の作付意欲が大きく減退したことがあると考えられます。また、2番刈を収穫する農家は全体の50%程度との情報もあり、茎太品などの安価な低級品の発生量が注目されます。

北カリフォルニアにおいても、相場の低迷により作付面積は大きく減少する見込みですが、米国産全体のスーダンの供給量は15年産の繰り越し在庫も含めれば問題はないと思われます。



	3月15日	4月1日	4月15日	5月1日	5月15日	6月1日	6月15日	7月1日	7月15日	8月15日	9月15日	10月15日	11月15日	12月15日
2014年	8236	23795	33118	39364	43597	49495	51586	51594	47756	29337	12376	4879	2646	568
2015年	1752	14942	20561	26214	31644	38502	41260	40633	39247	21329	13150	7345	2998	278
2016年	6874	20497	24929	31326	34651	37268	38130	34990	29859					
過去10年平均	4428	17440	28980	35873	40716	48350	53059	54981	54247	43518	28231	18479	8142	3033

2016年産インペリアルバレー スーダン作付面積動向(2016年7月15日時点)



(スーダンプレミアム 7月中旬撮影)

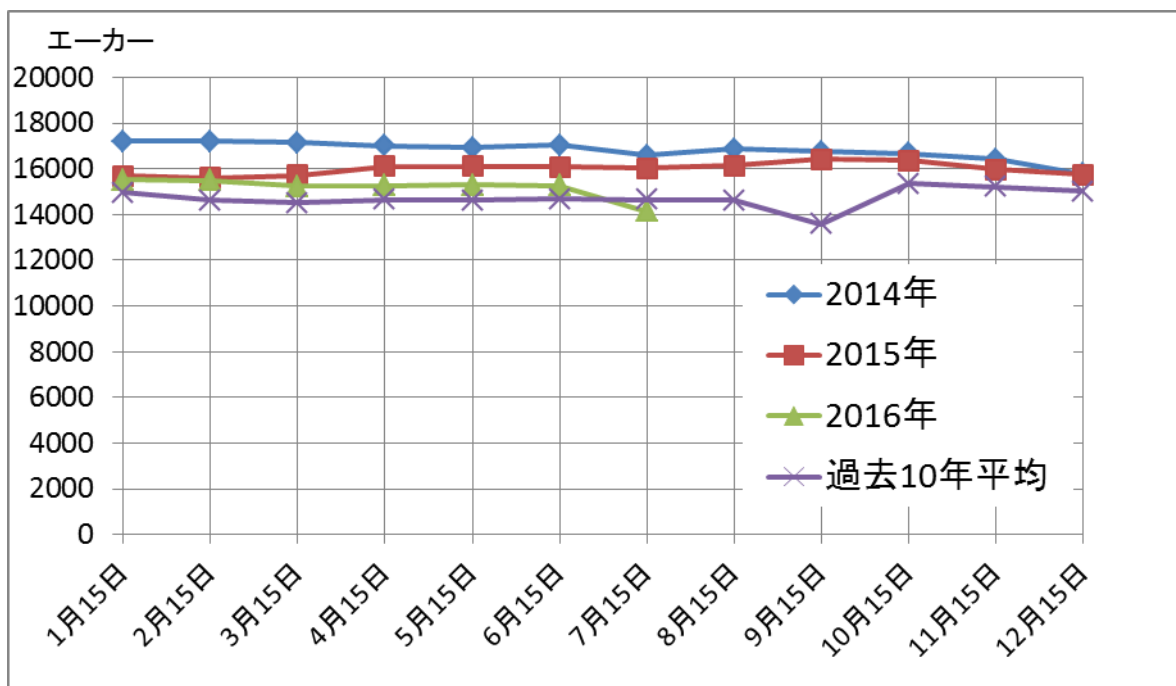


(スーダン中級品 7月中旬撮影)

クレイングラス(クレインは全酪連の登録商標です)

クレイングラスは2番刈りまで終了しています。ここまでのところ、天候にも恵まれ順調な生育となっております。現在進行中の3番刈りについても例年並みの品質のものが多く発生しているようです。しかしながら、スーダンと同様に産地相場の失望感から、休耕地としたり、水入れを休止した圃場が増えクレイングラスの作付面積は7

月15日時点で14,142エーカーと昨年比12%減となっています。今年の生産量は昨年より20-30%減少するとの見方も出ています。韓国からの引き合いは昨年から一転し順調のようで、生産量の減少見込みと相まって今後の産地相場は強含みで推移するのは確実な状況です。



	1月15日	2月15日	3月15日	4月15日	5月15日	6月15日	7月15日	8月15日	9月15日	10月15日	11月15日	12月15日
2014年	17192	17192	17140	17005	16930	17038	16578	16873	16745	16659	16413	15786
2015年	15691	15605	15724	16111	16111	16086	16026	16152	16430	16372	15974	15746
2016年	15526	15501	15234	15255	15295	15262	14142					
過去10年平均	14955	14610	14515	14643	14628	14676	14652	14632	13596	15361	15224	15027

2016年産 インペリアルバレー クレイグラス作付面積動向(2016年7月15日時点)

ストロー類(フェスキュー・ライグラス)

主産地オレゴン州ウィラメットバレーでは、ライグラスストローとフェスクストローともに7月に入り順次収穫が始まっています。冷涼な気候により例年に比べ、収穫スケジュールはやや遅れているようです。また、不定期に降雨が確認されており、一部の圃場ではライグラス・フェスキューともに降雨被害が出ているようです。収穫期の天候不順が収量や相場にどのような影響を及ぼすのか、旧穀の在庫量もサプライヤーによって異なるようで、今後の端境期から新穀出荷までの価格動向は注視する必要があります。

豪州産オーツヘイ

各産地では順調に生育が進んでいます。

7月の降雨量について、西豪州北部では例年並みでありましたが、西豪州中部、南部では例年より降水量が少なくなっております。しかしながら4月から6月上旬には十分な

降雨があつたため土壌水分量は問題ないレベルとなっています。収穫開始の時期も例年並みと予想されており、収量についても現在のところ例年並みと予想されています。

南豪州も西豪州とほぼ同様の状況ですが、東豪州については例年比130%の降雨が観測されています。播種後の生育期に低温で降雨量が多すぎると生育が十分に進まない懸念がありますが、今後の生育期間中の気温次第で十分回復は可能との見方が多いようです。このように、豪州全域において大きな天候の影響も受けず、現段階では生育は順調と言えます。

産地相場については、今のところ大きな変化は見られませんが、豪州国内の乳価も下がっていることから、やや軟化傾向になる可能性が出て来ています。

以上